

新田神社の御田植祭に伴う芸能（奴踊，棒踊）

【所在地】薩摩川内市宮内町 1935 - 2（御田植祭に伴う芸能保存会）

【種別】県指定無形民俗文化財

【指定年月日】昭和 38 年 6 月 17 日



（奴踊）



（棒踊）

新田神社の御田植祭は、古くは旧暦 5 月 6 日だったが、現在は入梅の前の日曜日に行われる。この日に、樋脇町倉野と川内市宮内からそれぞれ 1 組が出て奴踊を奉納する。

当日の朝、新田神社の下にある保食神社で清めた苗を神田に運び、白衣姿の早男、緋の袴をつけた早乙女が田植えを始める。すると神田の両側に控えた田植仕事着姿の奴たちが、竹竿の先に割竹 8 本をつけたパリン（馬簾）を回しながら奴踊を踊る。田植歌に合わせてパリンを回すと、8 本のへぎが広がりサラサラと美しい音をたてる。

また、境内では寄田町棒踊をはじめ、川内市内の棒踊も奉納される。

田植祭りにおける芸能のもっとも顕著なもので、農耕と神社の信仰をよく保っていると考えられる。